

2025（令和7）年度 自己評価結果公表シート

富山短期大学附属みどり野幼稚園

1 本園の教育目標

1. 心も体も健康でいきいきとした子ども
2. 自分の思いや考えにもとづいて、園の生活に取り組む子ども
3. 友だちと共に園の生活を楽しみ、意欲的に行動する子ども
4. 身近な自然や人とのかかわりに心を動かし、感じたことや考えたことを素直に表現する子ども

2 本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼児期において、自分の「好き」という思いを出発点として周囲の環境と深く関わり、そこでの探究がさらに豊かな世界への興味や関心へとつながっていくプロセスは、生涯にわたる学びの基礎を培う上で極めて重要である。本年度は、子どもたちのこうした豊かな経験を保障するために、本園が大切にしている自然と子どもたち、そして教職員が相互に関わり合いながら共に育ち合う「共生」の場として、園庭環境のさらなる充実を図る。また、子ども一人一人の心を動かす興味や関心を大切にしながら、子どもと教職員が共に遊びや生活を深め、新しい意味を創り出していく「共主体の保育（こどもまんなか保育）」の実現を目指す。これらを踏まえ、本年度は次の2点を重点課題として取り組む。

1. 子どもの豊かな経験を保障するための園庭環境の充実
2. 子どもの興味・関心から保育を展開する共主体の保育の実践

<昨年度の公表シートから：2025年度に取り組むべき課題>

- ① **健康で安全な生活の保障**
 - 自然災害や感染症、不審者対応など、より広範な安全対策を強化するとともに、具体的な計画や訓練の実施、保護者との情報共有を図る。
- ② **多様な個性に応じた「環境を通して行う保育」の充実**
 - 園内外の専門機関との連携を強化し、職員の専門性向上を図りながら、一人一人の個性に応じた丁寧な保育を実践するとともに、豊かな経験を保障するための保育環境の充実を図る。
- ③ **ICT 活用による保育の充実と子育て支援**
 - 保育活動への効果的な ICT 活用を進めるとともに、保護者への情報発信・共有の質を高め、職員の業務効率化にも資する活用方法を検討する。
- ④ **社会ニーズに対応した園運営のあり方を検討する**
 - 保護者や地域社会のニーズを的確に把握し、多様な意見を取り入れながら、持続可能な園運営のあり方を検討する。特に、満3歳児の入園ニーズ、預かり保育の充実、保護者会のあり方などについて、具体的な検討を進める。

3 評価項目の達成及び取り組み状況

① 園運営

今年度は給食業者の廃業に伴う一時的なお弁当持参への変更や新たな業者による再開など、イレギュラーな対応が発生したが、保護者のご理解とご協力を得て運営を継続することができた。

ICT 活用については、お便り等のデジタル配信やキャッシュレス決済の導入を進め、業務の効率化と利便性向上を図った。一方で、園児募集にもつながる園の魅力発信（ホームページ更新や SNS 活用等）が今後の課題である。

保育の充実と安定した園運営のために、県・市の補助金の活用を図った。近年のニーズに合わせて、令和8年度から利用定員を変更（1号90→75人/2号20→25人）することとした。

② 教育課程

継続している「教育課程」研究において、保育記録（ウェブ図）の様式を見直した。従来の網羅的な記録から、時間的な流れや子どもの育ちのプロセスが見えやすい形式へと改善し、次の保育の展開や見通しを考えるための記録として再構成した。これにより、1年間を通した子どもの育ちやクラスの経験の連続性が捉えやすくなった。

③ 幼児理解

一人一人の個性への配慮に加え、各家庭の多様な背景や価値観に寄り添った柔軟な対応に努めた。言語や文化の違い等が生じる場面においても、それぞれの状況に応じたコミュニケーションを心がけ、相互理解を深めることを大切にされた。家庭ごとの事情や思いを尊重し、園として温かく受け入れる姿勢を示すことで、子どもたちにも多様性を自然に受け入れる姿が見られた。

④ 保育実践

「環境を通して行う保育」の具体的な取り組みとして、園庭環境の再構成を行った。匂いのする木（キンモクセイ等）や紅葉する木を子どもたちの身近な位置に移し、ピオトープとの距離感も調整することで、園庭を「生きている環境」として育てた。これにより、小さな子どもたちも自然に関わりやすくなり、虫探しや植物の継続的な観察など、遊びの大きな広がりへとつながった。

⑤ 健康・安全

感染症流行時には、学校医や薬剤師と連携し適切な対応をとるとともに、電子配信システムを活用した迅速な情報共有に努めた。また、引き渡し訓練や消防訓練を実施し、その様子をブログ等で可視化することで保護者の安心感に繋げた。一方で、アンケート結果から、床の衛生管理、送迎時の駐車ルールの徹底、園児間のトラブル時の「善悪の区別」の指導について心配の声が寄せられた。これらは最優先で取り組むべき安全・衛生課題と位置づけ、清掃体制やルールの再周知等、改善に着手している。

⑥ 子育て支援

満3歳児（うぐいす組）の受け入れや親子サークル活動を継続し、未就園児が園の環境に触れ、入園へと接続する良い流れができています。

また、保護者の集まり「ぺんぎん組」を中心に、園庭整備や遊び大会が実施された。親子がゆったりと関わり合いながら楽しむ体験は保護者からも好評であり、有意義な親子交流の場となった。

⑦ 職員の研修及び資質向上

今年度の園内研修は、具体的な保育実践や子どもの姿をもとに全教職員で語り合う対話型の研修を実施した。それぞれの保育観や意図を共有し合うことで、立場や経験に関わらず全教職員の間で「仲間」としての意識や一体感が生まれた。今後は全体会議だけでなく、学年別などの小さな対話の場を継続的に設けるための時間確保を目指す。

⑧ 地域との交流（学園内交流含む）

今年度は地域との交流行事は限定的であったが、小学校との連携（学校探検、5年生との交流会等）を積極的に実施し、幼小接続（架け橋プログラム）に向けた一歩を踏み出した。また、中学生の「14歳の挑戦」や短大生の実習受け入れを通じて、多様な世代との関わりを持った。

<全体的な評価>

本年度は、園庭環境の再構成を通じた「生きている園庭づくり」や、保育記録の見直し、対話型の園内研修など、子どもの遊びのプロセスと保育の質を高めるための内実を伴った取り組みを進めることができた。多様な背景を持つ家庭への対応など、時代に合わせた柔軟な幼児理解も深まった。

一方で、保護者アンケートの自由記述等から、情報発信や、衛生面・安全面での配慮、行事における保護者負担等に関して、改善を求める声が寄せられた。寄せられたご意見の一つ一つに込められた思いやご不安を真摯に受け止め、園としての考えを丁寧に説明するとともに、具体的な改善に努めていくことが重要であると認識している。教職員間でこれらの課題を共有し、子どもたちが安全で心穏やかに過ごせる環境づくりと、保護者が安心できる丁寧な情報伝達へ向けて、園体制のアップデートに取り組んでいくことが必要である。

<次年度に取り組むべき課題>

- ① **健康で安全な生活の保障**
 - 自然災害や感染症への対策を継続するとともに、施設環境の清掃体制や送迎時の安全ルールの再周知を徹底し、子どもたちがより安全で心地よく過ごせる環境をつくる。
- ② **多様な個性に応じた「環境を通して行う保育」の充実**
 - これまでの園庭環境の再構成や対話型の園内研修の成果を活かし、幼児期の遊びを通じた学びのプロセスを小学校教育へ円滑に接続する「架け橋期」の取り組みを推進するなど、保育のさらなる質向上を図る。
- ③ **ICT 活用による保育の充実と子育て支援**
 - 保護者への確実な情報伝達のため、デジタル配信と紙媒体の効果的な併用を検討し、文書の確認体制やルールの事前説明等の強化に努める。また、園の豊かな保育実践を外部へ伝えるため、SNS 等を含めた新たな魅力発信の手法を整備する。
- ④ **社会ニーズに対応した園運営のあり方を検討する**
 - 時代の変化や各家庭の多様な背景を踏まえ、歴史ある行事の楽しさや意義を保ちつつ、食の安全・衛生への配慮や保護者の負担軽減の観点から、保護者活動や行事の柔軟な見直しを保護者会と連携して進める。

以上の自己評価と保護者アンケートの結果をふまえて、関係者会議を行い、本園の課題や対応について話し合いました。会議でのご意見を参考に、全体的な評価や次年度に取り組む課題の整理を行っております。保護者の皆様や関係者の方々のご意見を活かし、2026年度の園運営に真摯に取り組んでまいります。

2026年3月31日

富山短期大学附属みどり野幼稚園
園長 宮田 徹